

国鉄本社に基本協約の締結を申し入れ

路線論争もきつくなってきた「本部」暴力集団

六月二一日、西森副委員長、中野書記長が国鉄本社に対し、基本協約についての申し入れを行った。

これは、三月三〇日結成大会の決定に基づき、すでに申し入れてある問題であり、国鉄当局は直ちに応ずべき性格のものであるにもかかわらず、不当にも、「公労委から認定されていない」ということを理由に拒否していたものである。

動労千葉の路線的正義性に裏付けられた強固な団結は、公労委の認知をかちとり、国鉄当局を追

路線論争もきつくなってきた「本部」暴力集団

「本部」暴力集団は動労千葉破壊策動のためのデマ宣伝の主要な論点としていた「公労委の認知」が決定されたことによりめざされていく。

財政的にも、意識分裂からくる動員力の凋落その他、組織的にも破産状態にある「本部」暴力集団は、六月二〇(二十一日)、動労千葉各支部へ「動力車新聞・号外」(その20)、「千葉地本再建情報」(No.15・16)その他のデマビラを持ち込んだ。

「太田選挙のキャンペーン」や「さつきカレンダーの販売金」をごまかしたなどという、動労千葉の組合員が見たら一笑に付するような低劣な内容のデマビラである。

公労委問題に関して言えば、四(五)月頃にバラバラにいたデマビラと並べて見れば、その主張が一八

〇度違うということが一目瞭然なのだ。しかも、「団結署名をした者からは各個人に対して裁判を起し、裁判費用とともども取り立てる」などというところまで錯乱した状況を自己暴露している。

できるものならやってみればよい。動労千葉は法廷対策も含めて万全の体制を確立しており、このような不当な攻撃をはね返し勝利することに確信をもっている。

「暴力」セクト的動労私物化「水本」「貨物安定宣言」そして「三里塚・ジェット」、この間動労千葉が提起してきた問題について、路線論争もできない「本部」暴力集団の破産の状況はいよいよ末期の様相を呈してきた。

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

シリーズ 反動の「サミット」と八〇年代労働運動のゆくえ Ⅱその⑤Ⅱ

(5) 朝鮮危機の激化と沖縄の最前線基地化

「サミット」の翌日、カーターは訪韓しようとしている。

今日、韓国は、高度成長政策の行き詰まり、不況とさまざまなインフレ、倒産と失業の激増、一方での際限なき軍事費の増大の中で、極限的弾圧をもつてする朴独裁によっても押さえ切れない民衆の怒りが爆発的に高まっている。キリスト教会関係者までも「自生の共産主義者」としてデッチ上げ弾圧する(三月「クリスチャン・アカデミー弾圧事件」ところまで、朴「政権」の支配体制はグラグラになっているのである。

ベトナムでの敗北(一九七五年四月)



上陸演習を強化している自衛隊。明らかに朝鮮半島へむけられたものだ。
(上陸用舟艇「さつま」)

以後、全世界的に支配力を低下させてきた米帝国主義の起死回生のまき返しをかけて、カーターは朴体制の危機の爆発を朴政権へのテコ入れと軍事力によって押さえこみ、「北の脅威」をあ

おりたて、戦争を挑発してでものり切ろうとしているのである。

今年一月行なわれた「チームスピリット79」は、米本土、ハワイ、沖縄の米軍五万六千と韓国軍一万を投入し朝鮮における戦争を具体的に想定した史上最大の作戦として強行された。

朴体制維持に体制の存亡をかけて戦争にのめり込むカーター、朝鮮を「生命線」として独自の利益を米帝としてのぎを削り合いながらも、朴体制維持のために日米共同侵略体制を企む日帝・大平、そして、われわれはそれらすべての最前線基地として沖縄は、今日、ベトナム戦争をはるかに上まわる米軍の実戦訓練と、これと連動した自衛隊の演習の砲弾の中にたたきこまれて

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!